

# 正論大賞に江崎道朗氏

## 新風賞は阿古智子氏



江崎道朗氏



阿古智子氏



田久保忠衛氏

### 特別功労賞 田久保忠衛氏

自由と民主主義のため  
に闘う「正論路線」を  
展させた言論活動に  
対して贈られるフジ  
サンケイグループの  
第39回正論大賞に、  
麗澤大学客員教授  
で情報史学研究家の  
江崎

道朗氏(61)が決ま  
った。新進気鋭の言  
論人に贈られる第  
24回正論新風賞  
には、東京大学教  
授の阿古智子氏(52)  
が選ばれた。また、  
長年の言論活動に  
よるわが国の世論  
形成に

多大な貢献をしたことを  
たたえ、杏林大学名誉教  
授の田久保忠衛氏(90)に  
特別功労賞が贈られる。

江崎氏は、外交(Di  
plomacy)、情報  
(Intelligence)、軍事(Mili  
tary)、経済(Ec  
onomy)の4要素の  
英語の頭文字をとった  
「DIME」が国家安全  
保障の基本戦略であると  
して評論活動を展開。日

本を取り巻く安全保障環  
境が変化し、日米同盟が  
深化しつつあることを  
確にとらえ、誇りある  
立国家への道を切り開く  
ことを主張する論調が、  
正論大賞にふさわしいと  
評価された。

阿古氏は、中国を現実  
的な視点から分析し、中  
国共産党政権におもねる  
ことなく、日本のとるべ  
き対応を訴えてきたこと  
が新風賞にふさわしいと  
評価された。

正論大賞の正賞とし  
て、ブロンズ彫刻「飛  
翔」(御正進氏制作)、  
新風賞は同「ソナチネ」  
(小堤良一氏制作)、特  
別功労賞は記念の盾が贈  
られる。贈呈式は来年3  
月7日、都内で行われる。  
11面に「受賞の言葉」

## 新風賞



〈あこ・ともこ〉 昭和46年大阪府生まれ。大阪外国語大学、名古屋大学大学院を経て、香港大学教育学系大学院博士課程修了。在中国日本大使館専門調査員、早稲田大学准教授、東京大学大学院総合文化研究科准教授などを経て、令和2年から同科教授。4年から現代中国学会理事長。専門は社会学、中国研究。3年9月から本紙「正論」欄の執筆メンバー。52歳。

# 人間の痛み、自分の言葉で表現

香港の元民主活動家、周庭（アグネス・チョウ）氏が2年間の沈黙を破り、滞在先のカナダで事実上の亡命を宣言しました。香港警察は「全力で逮捕する」と述べ、どこにでもいるような「普通の」若者が、警察に追われる逃亡犯になりました。

そして、中国の農村で教育援助や水利事業を行いながら中国研究を始めた私が、今では人権問題の専門家として発言し、中国政府による言論弾圧や統治手法を批判し、安全保障を語っています。

私が正論新風賞を受賞することなど、10年前には予想できなかったでしょう。「日本の自由な社会と健全な民主主義を守る」との信条に基づき設立されたこの賞を賜り、心から光栄に

## 東京大学教授 阿古智子氏

感じています。同時に人として、「当たり前のことをやってきた」私が、時代の変化に押されて受賞の栄誉を得たのではないかと、複雑な心境です。

大学生のとき、私は、貧困を解消し、誰もが学ぶ権利を享受できる社会をつくるために力を尽くそうと思っていました。しかし、中国での調査を通して見えてきたのは、筆舌に尽くしがたいほど残酷な声なき民への弾圧でした。発展の足枷となるものを排除するには、不足する資源を補うだけでは不十分でした。人間が独立した批判的思考を持ち、自由に自己を表現し、行動できる環境があつてこそ、宗教、人種、民族、政治の迫害に正面から向き合い、対抗することができません。埋もれている重要な事実を掘り起こし、社会

正義を実現するための課題を見出すことができます。

中国をはじめとする権威主義体制の国々が経済力と軍事力を増し、世界をリードしようとしています。それを受け入れがたいと感じ、変えようとする行動する人は、日本にどのくらいいるのでしょうか。日本の人権保障、民主主義の実態も決して誇らしいものではありません。

私は、自らの尊厳を踏みにじられる形で他者に支配されることを、明確に拒絶します。自らの主体を取り戻し、人間として感じる痛みを、喜びを、自分の感覚と言葉で表現したいのです。そんな「普通の」ことさえ実行できない現実を前に、私にこの賞が授与された事実を重く受け止めています。この度はありがとうございます。ごさいました。

## 普遍のまなざし 評価

■「お祝いの言葉」

阿古智子氏は東アジアの一大女傑である。おそろく現代の中華圏で彼女ほどリスペクトされている日本人女性もいないのではなからうか。

問題の塊ともいえる中国（プラス香港）と取っ組み合い、農村から都市まで出歩き、市井の人たちを大事にする。その人たちは、普通であるがゆえに問題を抱える。困っている人の弁護を買って出る弁護士、環境や女性を大事にする活動家、あるいは憲法は政党の上にあるべきだと説く憲法学者などはみな、一党独裁のシステムから圧迫を受ける。



阿古氏は、そういう人ひとりひとりを、まるで飴ちゃんを差し出す大阪のおばちゃんのように普通に支える。

ここで普通は普通となる。彼女は、大上段から価値を説くのではない。ましてや日本を上位に置き、上から目線で中国を一括りに断罪する態度とは無縁だ。その普通—普遍のまなざしは、日本のヘンな現状にも等しく向けられる。市井をベースにした普遍の極みだ。阿古氏は受賞にふさわしく、それは誠に喜ばしい。

## 東京大学教授 遠藤乾氏